

## 地域がん登録資料に基づく研究成果の普及のための教育ツール開発

鈴木 朋子\* 井岡 亜希子 津熊 秀明 大杉 奈々  
 笠木 麻里恵 川村 歩 森 綾香 小崎 綾子 関口 知恵  
 田中 栄理子 外園 紫野 湊 彩希 吉井 彩 岩井 優美

地域がん登録資料の分析から示唆されたがん対策のあり方を広く一般の人々に理解してもらうことは、科学的根拠に基づくがん対策を推進する上で大きな効果が期待される。しかしこれらは専門性が高く一般の人々に理解されにくいという特性から、これまではがん疫学の研究者や一部の行政担当者や保健医療従事者の間でしか活用されてこなかった。また地域がん登録は、対象となる地域に在住するすべてのがん患者を登録対象とするため、その必要性について一般の人々に理解を深めてもらうことも肝要である。そこで本研究では、地域がん登録資料を活用して導かれたがん対策について、一般の人々が楽しく学べる教育ツールを開発することを目的とした。

開発にあたっては、一般の人々に理解されやすいという点を重視し、健康教育について基礎をもつ栄養士・管理栄養士養成課程で学ぶ大学生および大学院生とともにいった。開発の手順は、まず教材開発に必要な専門基礎知識を共有することを目的に、地域がん登録資料のがん対策への活用に関する学習会を重ねた。その後、開発する教育ツールの学習目標の明確化、教材形態の検討、試案の作成、試案について医学的、教育的視点からの再検討、教材化の手順で行った。なお開発する教育ツールの科学的根拠は、主に大阪府がん登録資料に基づいて作成された「統計でみる大

阪府のがん—10年でがん死亡20%減少へのアクション—」を参考にした。

検討の結果、今回開発する教育ツールの学習目標は、1)科学的根拠に基づくがん対策行動の知識を習得できること、2)習得した知識を基礎として、がん対策行動への動機を高めることができること、3)周囲の人へのがん対策行動に関する声かけを行えるようになること、とした。教材の形態は、ルールが明確で、遊び方を誰もが知っている「かるた」を採用した。「かるた」のメリットとして、がん対策という専門的で多岐にわたる内容を、楽しく覚えやすい文言とイラストで構成することが可能なこと、がんに関する専門知識のみならず、「わが国でがんは特別な病気ではなく、誰でもかかる可能性がある」ことや、「がん対策として、あなたにもできることがある」というような、個々人への動機づけのメッセージを織り込むことが可能になると考えた。これらの方針に基づき、試案を作成し、さらに医学的、教育的視点からの再検討を行い、教材の作成を進めている。

開発する教育ツールは、約50枚のカードで構成される「がん対策かるた」である。今後の予定として、グループワークを中心とした健康教育の場における活用を検討している。具体例としては、数十人の教室形式の場で、

---

\*大阪樟蔭女子大学学芸学部

〒577-8550 大阪府東大阪市菱屋西4-2-26

---

数人ずつの小グループにわかれて、本ツールを用いたいわゆる「かるたとり」を行った後、がん対策行動に関する知識の定着や動機を高めることをねらいとして、グループメンバーとがん対策として自分たちでできることについて話し合いを行うなどのグループワークを併用した教育プログラムである。あわせて、有効性の検討も行っていきたい。

表. 教育ツールにおける個人のがん対策行動の方向性

分野	がん対策行動
たばこ対策	禁煙、受動喫煙の防止、未成年者喫煙防止
肝炎ウイルス対策	肝炎ウイルス検診の受診
がん検診	胃・大腸・乳房・子宮頸部検診の適正時期の受診
がん医療	がん医療に関する社会資源の活用